

2022年10月26日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第3期 第7回（通算37回）

金融教育の現状と課題

森永 康平氏（株式会社マネネCEO／経済アナリスト）

1. 内容

- ・日本人の金融リテラシーの問題より、金融教育の大切さについて解説

2. 所感

今回は、水曜サロンにおいて、ICT教育に直接関係ないテーマで行う初めての試みでした。日本人の金融リテラシーの問題を考えるにあたって、まずは歴史から。秀吉の時代までさかのぼり、武士道や落語まで、日本人の心にお金は卑しいものと刻まれてきており、その解消には長い年月がかかるだろうというお話。そして各種データを用いて、分かりやすい例え話や授業実戦経験からの子どもの声など、明快で説得力のあるものでした。

日本人は痛い目に遭いつつリテラシーを徐々に高めている、18歳成人となり、若者が金融詐欺の被害を受けるリスクが増えることを心配されるなど、一貫して、金融リテラシー、金融教育の大切さを教えてくれる中で、金融業界の利権でもなく、一攫千金を狙う事でもなく、個人として資産を守ること、社会の一員としてマクロ経済の仕組みまで幅広い知識を得ることの大切さを教えていただいたように思います。海外に比べると、アメリカなどと比較すると遅れている実態も分かりました。

質疑では、学童を含めた、授業の持ち方、保護者や市民への説明、協力事業者としてのスタンスなど、皆さん満足されたのではないのでしょうか。

最後に、金融庁の金融教育のサイトや動画を見ていると、これを学校で先生が教えるのは無理だろうと思っていましたが、森永さんからは、学校教育では、金融教育に限らず、先生の負担を考えて、さわりをやればよく、深いところは家庭教育、親子で学んでいくこと、そのような役割分担がよい、まったくもって納得でした。

本日の質疑も合わせて、この1時間の内容は、全ての教育関係者、金融業界関係者に共有したい内容でした。森永さん、ありがとうございました。

以上